

## 守れた遺跡 生まれた文化講座

## 文化



いわい・てるよし 1948年、相楽郡木津町（現・木津川市）生まれ。奈良県立大学商学部卒。78年、「木津の文化財と緑を守る会」創設。木津川市文化財保護審議会審議員。

「大変だ！ 梅谷瓦窯が潰され道路になる」。文化財関係の友人から突然の電話で、その危機を聞いたのは約20年前の1996年2月ごろであった。

木津川市梅美台にある梅谷瓦窯は、その数年前、関西文化学術研究都市開発に伴う発掘調査で、奈良時代

木津の文化財と緑を守る会会長

## 岩井 照芳③

の興福寺の創建瓦を焼いた窯跡であり、窯の進化形態も分かる貴重な遺跡と判断していたので、当然保存されるものと確信していた。それまでも、古墳のデパートとまで言われた瓦谷古墳群や瀬後谷瓦窯、埴輪窯などが潰されていた。それだけに驚愕した。すぐに宮本裕三・木津町助役（当時）に確かめ、戸田敏彦・木津町長（同）にもこれ以上「木津の宝」を潰すべきではないと何度も直訴した。2人は「この件に関しては報告を受けてい

なかった」と打ち明け、「保存に向け、できるだけ努力する」との返事。この言葉を信じるしかなかった。

一方で、興福寺の貫首と会談し、木津町長と府知事あてに至急保存要望書の提出を依頼。また府文化財保護課長にも面談し、協力を要請した。

その数日後、突然新聞各紙に「梅谷瓦窯保存される」の記事が大きく掲載された。これまでは事前に情報が入らず潰されたこともあったが、今回は努力が報われた思いであった。

この保存ができたのは、守る会と興福寺、木津町の三者の努力の結果であると評価し、これを記念に「ふれあい文化講座」を三者共催で行うことを提案した。第1回は今年の8月31日に開催。今年で20年目を迎えることになる。

四季  
つれづれ